



Influenza at the human-animal interface

動物由来インフルエンザ情報

2015年3月3日現在の概要と評価

原文：http://www.who.int/influenza/human_animal_interface/Influenza_Summary_IRA_HA_interface_3_March_2015.pdf?ua=1

1 鳥インフルエンザ A (H5) 型ウイルスによるヒトの感染症

2003年から2015年3月3日までに、鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染症で784例のヒトの症例が、16か国から WHO に公式に報告あり。これらの症例のうち429例が死亡例(図1)。

WHO のインフルエンザ情報が最終2015年1月26日に更新されてから、新たに66例の鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染のヒトの検査確定症例(13例の死亡例を含む)の発生について、エジプト(65例)および中国(1例)から WHO に報告あり。

エジプトから報告されたインフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染の65例のヒトの症例のうち、29例は1月に発症し、残りは2月に発症。症例は、エジプトの18の異なる行政区域(県)から報告。65例の年齢の範囲は1歳~75歳で、中央値は26歳、症例の23%は10歳以下。家禽あるいは家禽市場への暴露があるすべての症例は入院し、1例以外すべてが抗ウイルス薬による治療を受けたという。新規に報告された症例のうち、ファイユーム(Fayoum)県の母と娘に確認された2例を含む1つの集団事例あり。母親は娘が発症する2日前に発症し、二人とも裏庭飼育の家禽への暴露歴あり。

現在、エジプトでは、先月および前年の同じ月と比べて、家禽のインフルエンザ A (H5N1) の集団発生数や検出数が増加しているという報告あり。

2014年12月、2015年1月および2月に発症したエジプトでの鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルス感染のヒトの検査確定症例数は、月単位では、どの国よりも最高の報告数。すべてのインフルエンザウイルスは時間とともに変異するが、予備の実験室内研究では、患者あるいは動物から分離されたウイルスでは以前に循環していたウイルスと比べて、主要な遺伝子の変化は確認されていないが、さらに詳細な解析が進行中。現在循環している H5 クレド 2.2.1 ウイルス(すべてエジプトで最近分離されたインフルエンザ A (H5N1) ウイルスグループに属する)に対して、より高い防御を示す新規のワクチン候補株が提案されている。ヒトの症例数の増加には、家禽でのインフルエンザ A (H5N1) ウイルスの循環の増加、エジプト中部および北部での公衆衛生上のリスクに対する低い認識、ならびに、寒い季節のため環境中でウイルスの長期生存が可能であるため、家禽にはごく近い存在であるような季節性の要因を含む、複数の要因があると思われる。インフルエンザ A (H5N1) ウイルスと関連するリスクを評価し、制御対策を推奨するためのエジプトへの高レベル WHO/FAO/OIE 共同活動が、2015年3月上旬に計画あり。

中国は、江蘇省の37歳女性で、鳥インフルエンザ A (H5N1) ウイルスによるヒトの感染症例を報告。女性は2015年1月14日に発症し、1月20日に入院。女性には、家禽への暴露歴あり。接触者間での追加症例については報告なし。

中国は、雲南省の44歳男性で、鳥インフルエンザ A (H5N6) ウイルスによるヒトの感染症例を報告。男性は2015年1月27日に発症し、2月3日に入院したが、2月6日に逝去。男性には、死んだ野鳥への暴露歴あり。接触者間での追加症例については報告なし。この症例は、中国で報告されたインフルエンザ A (H5N6) による3例目のヒトの症例。

○ 鳥インフルエンザ A (H5) ウイルスの全体的な公衆衛生上のリスク評価

鳥インフルエンザウイルスは絶えず家禽を循環しており、感染した家禽や汚染環境に暴露したヒトに、散発的感染や小規模な集積が起こる可能性あり。動物から人への感染例の増加が過去数か月にわたってエジプトから報告されているが、これらのインフルエンザ A (H5) ウイルスは、現在、簡単にはヒトへの伝播を起こさない。したがって、これらのウイルスが地域社会に拡散するリスクは低い状態。

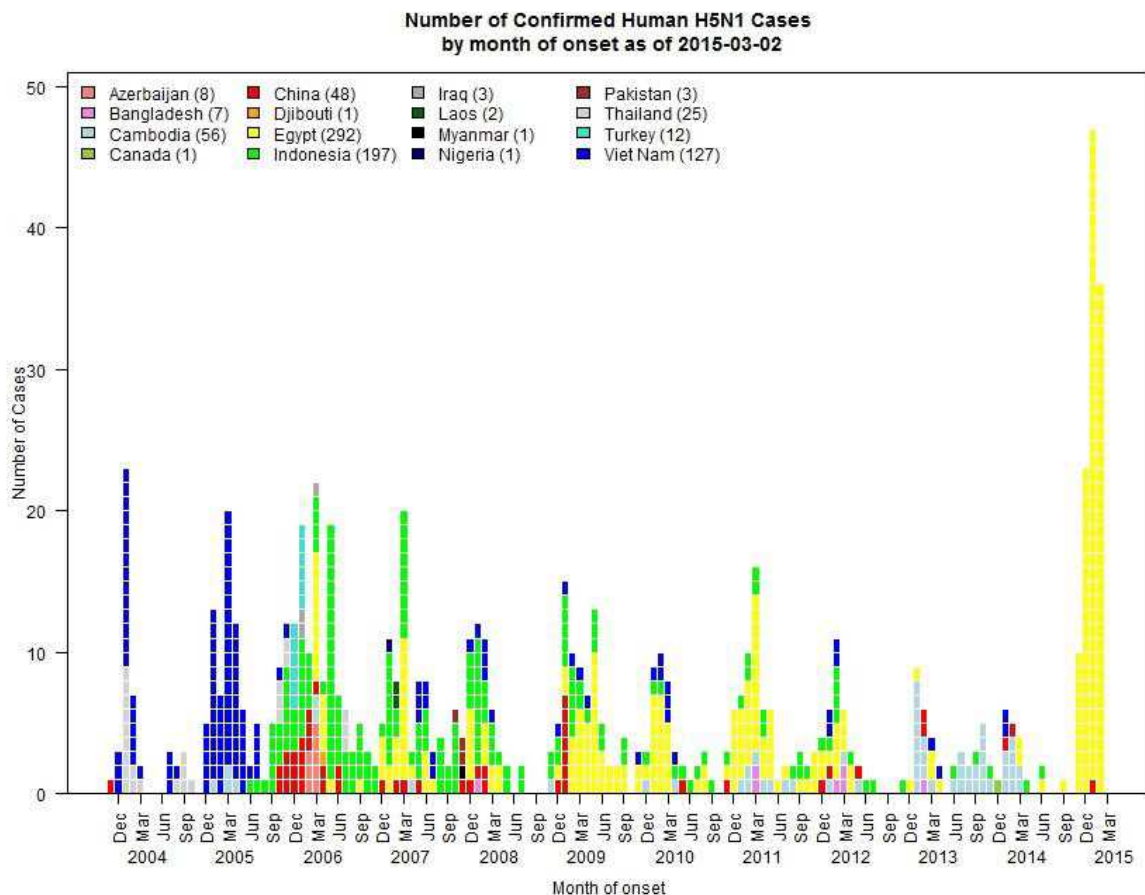


図1 国別・発症月別ヒトの鳥インフルエンザ A (H5N1) 症例の流行曲線

2 他の非季節性のインフルエンザウイルスによるヒトの感染

(1) 中国における鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスによるヒトの感染

鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスによるヒトの感染症で、合計602例の検査確定症例がWHOに報告あり（死亡例227例を含む）。最近報告されたヒトの症例の殆どは、感染した生きた家禽や汚染した環境への暴露と関連（生きた家禽が販売されている市場を含む）。A (H7N9) ウイルスは、家禽や家禽環境から検出し続けられており、その地域ではヒト症例の発生あり。最近の患者から分離されたウイルスではヒトから以前に分離されたウイルスと比べて大きな遺伝学的変化はない。これまでの情報では、これらのウイルスは簡単にはヒトからヒトへ感染しないことを示している。

○ 鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスの全体的な公衆衛生上のリスク評価

全体的に、鳥インフルエンザA (H7N9) ウイルスによる公衆衛生上のリスク評価は、2015年2月23日の評価以降変化なし。

(2) インフルエンザA (H9N2) ウイルスによるヒトの感染

鳥インフルエンザA (H9N2) ウイルスによるヒトの感染で2例の検査確定症例が、2014年末に中国で確認（四川省と広東省）。2例とも軽症という。

エジプトは、アスワン (Aswan) 県の3歳の少年で、鳥インフルエンザA (H9N2) による1例のヒトの感染症例を報告。少年は、2015年1月16日に、鳥インフルエンザウイルス感染の疑いで隔離されたが、1月21日に退院。少年には、健康な裏庭飼育の家禽への暴露歴あり。この症例は、エジプトから報告されたインフルエンザA (H9N2) によるヒトの感染症の初めての症例。このウイルスはエジプトの家禽集団に循環していることが知られており、最近の研究論文では、エジプトで家禽へ暴露されたヒトにインフルエンザA (H9N2) の比較的高い抗体保有率 (5-7%) という記載あり。

○ 鳥インフルエンザA (H9N2) ウイルスの全体的な公衆衛生上のリスク評価

このウイルスはアジアや中東にわたる家禽集団に循環しているので、追加症例や小さな集積が発生する可能性あり。このウイルスは、ヒトの間には簡単に感染しそうもなく、軽症で終わり、したがって、このウイルスの地域社会レベルでの拡散についての現在の可能性と公衆衛生上の脅威は、低いと考えられる。

(3) インフルエンザA (H1N1) 変異 (以下、v) ウイルスによるヒトの感染

インフルエンザA (H1N1) vウイルスによる1例のヒトの感染症例が、最新のリスク評価後に米国で確認され、2005年以降のヒトの感染症例数は17例になる。

○ 鳥インフルエンザA (H1N1) vウイルスの全体的な公衆衛生上のリスク評価

米国の豚集団にはこのウイルスが循環しているので、追加のヒト症例や小規模な集積がある可能性あり。過去に、潜在的に感染したブタ集団への濃厚接触と関連したヒトの症例あり。このウイルスの地域社会レベルでの拡散についての現在の可能性と公衆衛生上の脅威は、低いと考えられる。

インフルエンザウイルスは常に変異する性質があるため、WHOは公衆衛生や動物衛生に影響する恐れのある循環しているインフルエンザウイルスと関連したウイルス学的、疫学のおよび臨床上的変化を探知するために、特に冬季の月にわたって、地球規模のサーベイランスの重要性を強調し続ける。非季節性のインフルエンザウイルスによるすべてのヒトの感染症は、世界保健規則 (2005) に則ってWHOに報告することが必要。動物やヒト由来のインフルエンザウイルスについては、適切な動物衛生やヒトの衛生にかかわるインフルエンザレファレンス検査施設で十分な解析を行うことが重要。

平成 27 年 3 月 11 日

滋賀県衛生科学センター

健康危機管理情報センター 仮訳